

よかところ通信

2012年11月号

O2Farm【オーツーフーム】 大津耕太&愛梨
〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両併 587
Tel&Fax : 0967-62-3730
E-mail: o2farm@aso.ne.jp
O2FarmWeb : www.o2farm.net



今年も残すところあと1ヶ月ちょっと...と、書いてみて、自分でびっくりしています。皆さま冬支度はお済みでしょうか。今月の農作業は、稲刈りが終わり少しホッとしつつも、牛のエサの確保や田んぼの後片付けなど、既に来年に向けた準備も始まっています！

先月の通信を書いた時は、ご近所さんから頼まれる稲刈り作業が終わっていませんでしたが、10月でようやく全てが終了。間髪いれずに牛の餌にするための牧草の種を蒔き、ワラ集めをしました。そこまで終わってやっ

と、時間にも気持ちにも少しゆとりが出てきました。と言いたいところですが、今月の私はちょっとおかしいくらいのハードスケジュール。後半でご報告しますね。ワラを集める作業は、一家総出です。雨に濡れないよう、スピードが勝負なものですから。気持ち良い秋晴れの日、暗くなるまで作業をしました。ワラをロール状にするのが叔父。それを軽トラック

で運ぶのが私。ビニールハウス内に積み込んでいくのが耕太。子供たちはそれぞれ好きなところでお手伝い。飽きるとロールの上をぴよんぴよん跳んで遊んでいます。単純な作業ではあるのですが、何しろ数が多いので時間がかかる。



丸2日かけて全てのワラを集めました。これで冬場の餌を確保。牛たちも安心です。

それからつい先日、「みんなの田んぼ」で作業がありました。南阿蘇に移住してきた同世代の若者たちがお米作りに挑戦している田んぼです。田んぼの持ち主であるお爺さんが今年初めに亡くなられ、うちに「作ってくれないか」という声がかかったのですが、我が家は今年、近所のお年寄りたちから次々と田んぼを頼まれており、イノシシが出る棚田の一番下という条件が厳しいその田んぼまで手がまわりそうにありませんでした。一方、せっかく農村に移住してきたのだから、菜園はもちろん、米づくりも自分でしてみたい、という声もちらほら聞いていたので、彼らに声をかけてみたら「やる！」と即答。アラフォー5世帯の8人が田植えから収穫まで初めて自分たちの手でやってみたのです。収穫した稲を2週間ほど天日で乾かし、いよいよ脱穀。足踏み式の脱穀機を借りてきて、流れ作業で脱穀していました。試食がまだなので、楽しみにしているところです。





田んぼの後片付け等もだいたい終わりました。イノシシ除けに張っていたネットや電気柵を撤収したり、最後に伸びた草を切り、畦に残った草も田んぼに落としてから稲株とともに耕したり。こうしておくことで、春までに分解がすすむ、というわけです。稲刈りが終わると同時に始まる来シーズンの下準備。「お米を作るのではなく、田んぼを作る」と耕太が言っていますが、これは先輩方から教わった台詞です。来年もまたおいしいお米ができますように！

やっと稲刈り後の片付けも目処がついたので、タカナやタマネギ、エンドウマメやソラマメなど冬を越す作物を植えました。私が飛び回りすぎていて遅れていたサツマイモ掘りも先週末に子供たちと完了。さっそく焚き火で焼き芋をしていたら、出来上がる頃に近所の子も達がどこからともなく現れて…。嗅覚がいいんでしょうね、きっと(笑)。みんなでハフハフ言いながらできたてをほおばりました。



さて、私が飛び回っていた理由の一つは、先月もご紹介した再生可能エネルギーの導入事業なのですが、それ以外にもこのひと月は広告代理店で社内向けのプレゼンに引っ張り出されたり、女優の杉田かおるさんとのトークイベントに出たり。どうしちゃったの!?というくらい、あちこちで仕事があり、自分の職業が何なのか分からなくなりそうでした。原発事故直後から福岡に避難し、芸能暦40年にして「食」や「農」に興味を持つようになった杉田さんと、慶応出身の農家4人とで熱く(?)語ってきました。「農業を選んで良かった事、悪かった事は?」と聞かれたので、「良かった事は夫といつも一緒にいられることで、悪かった事は夫といつも一緒なことです」と答えました(笑)。会場に、アイガモ農法の権威である古野隆雄さんがいらして緊張しましたが、終了後に「おもしろかった」と言っていたので良かったです。



そんなこんなで、充実した日々を過ごしているのですが、ある日三男に「なんで稲刈りが終わったのにお母さんと遊べないの?」と聞かれてビックリ。冷水をかけられたような気持ちでした。子供たちが少しでも生きやすい環境や社会にしたいと思ってやっていることばかりなのですが、そのために自分の子供と向き合う時間が削られていることに気づかされ、今なお悶々としているところです。でも世の中の働くお母さんたちは皆、多かれ少なかれそんな葛藤を感じながら過ごしていらっしゃるのかもしれないと思いました。答えがある

問いではありませんが、大切なものを見失わないよう意識しながらこれからのことも考えたいと思います。風邪やインフルエンザが流行りだす季節。どうぞ皆さま、ご自愛ください。